

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|------------------------------------------------------------------------|
| 対象部局 | 教育学部 |
| 大項目 | 7 国際交流 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。 |
| 要素 | (KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性 |
| 小項目 | 7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。 |
| 要素 | (KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院） |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 全学的な国際交流プログラムへの学生の参加を促す。 | →「全学的な教育プログラムに基づいた国際教育・協力の基本方針の学部構成員への開示」「学生へのPR活動と個別相談の実施」 | B | C | | | |
| 2. 教員の国際的な教育研究交流を促す。 | →「学生へのガイダンスなどでの説明機会の頻度」 | C | C | | | |
| 3. 国際理解に関する学部開講科目「多文化共生教育」「国際理解」などの履修を学生に奨励する。 | →「教授会メンバーの国際的な教育研究交流の頻度」「多文化共生教育」「国際理解」の履修者数 | B | B | | | |
| | | ☆ | | | | |
| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ★ 小項目 7.0.1 | 7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。 |
| | (方針明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ ● 明示している ○ 明示していない (方針) 教員、保育士の養成を図ることが学部の主目的の一つであるが、海外の教育事情を知ることが教育全体を考える上で必要と考えるので、全学的な国際交流プログラムへの学生の参加を促す。また、海外の事情を知ることが必要な教科を担当している教員の国際的な交流を促す。 (説明) 国際交流プログラムへの参加を促す方策としては、CIECからの広報を掲示するに止まり、積極的に教員および学生に対して、基本方針に基づいた働きかけが不十分である。教育学部は保育士や教員養成を目的にしたカリキュラムが組まれているため、学外実習が多くその準備期間も含めると、国際交流プログラムに参加しにくい。今後は、国際交流プログラムの日程も考慮した授業計画等が考えられる。 |
| ★ 小項目 7.0.2 | 7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。 (説明) 学生による国際交流との関わりについては、以下の通りである。「国際理解」履修者99名、夏期英語研修3名。海外の事情を知ることが必要な教科を担当している教員の国際的な交流については、教員自身が科学研究費助成金の支給に加えて個人研究費の助成も受けて行っている。1名の教員が中国へ派遣され、また、複数の教員が国際学会へ参加し、教育研究の交流を行っている。 |
| ★ その他 | |

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

| 【教育学部】 | | | 単位 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 備考 | |
|-----------------------|--------------------|--------------|----|------|------|------|------|------|------|---------------------|-------------------------------|
| 指標1 | 国際交流協定締結機関数 | | 機関 | / | / | / | - | - | - | ・5/1現在 | |
| 指標2 | 国際交流協定締結国数 | | 国 | / | / | / | - | - | - | ・5/1現在 | |
| 指標3 | 海外からの受け入れ学生数 | 国数 | 国 | / | / | / | - | - | / | | |
| | | 外国人留学生 | 正規 | 人 | / | / | / | 1 | 2 | 2 | ・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 |
| | | | 交換 | 人 | / | / | / | 0 | 0 | / | ・累計数 ・交換は正規以外とする。 |
| | | 外国人留学生在籍学生比率 | 正規 | % | / | / | / | 0.3 | 0.3 | 0.2 | ・外国人留学生÷在籍学生数 |
| | | | 交換 | % | / | / | / | 0.0 | 0.0 | / | |
| その他 (セミナー等による受け入れ) | | 人 | / | / | / | - | - | / | | | |
| 指標4 | 海外への派遣学生数 | 国数 | 国 | / | / | / | - | - | / | ・累計数 | |
| | | 人数 | 長期 | 人 | / | / | / | 0 | 0 | / | ・累計数 ・1学期以上を「長期」 |
| | | | 短期 | 人 | / | / | / | 2 | 5 | / | ・累計数 ・1学期未満を「短期」 |
| | | 在籍学生比率 | 長期 | % | / | / | / | 0.0 | 0.0 | / | ・海外へ派遣した学生数÷在籍学生数 |
| | | | 短期 | % | / | / | / | 0.6 | 0.7 | / | |
| 指標5 | 海外からの受け入れ教員数 | | | | | | 0 | 0 | / | ・累計数 ・1年間以上を「長期」 | |
| 指標6 | 海外への派遣教員数 | | | | | | 0 | 0 | / | ・累計数 ・1年間以上を「長期」 | |
| | | | | | | | 6 | 16 | / | ・累計数 ・1年間未満を「短期」 | |
| 指標7 | 国連ボランティア(UNV)の参加者数 | | 人 | / | / | / | 0 | 0 | / | ・累計数 ・春・秋の合計 | |
| 指標8 | 外国人教員比率 | | % | / | / | / | 4.9 | 2.5 | / | | |

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

(その他の指標)
協定校と相互交流数(学生・教員)
国別国際交流協定締結先機関数
国別留学生数(学部別)の経年変化

☆追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|------------|--|
| 小項目 7.0.1 | |
| ☆小項目 7.0.2 | |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|------------|--|
| 小項目 7.0.1 | |
| ☆小項目 7.0.2 | |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

| 【点検・評価 (2)】改善すべき事項 | | 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。 |
|--------------------|--|-------------------------------|
| 小項目 7.0.1 | | |
| ★小項目 7.0.2 | | |
| その他 | | |

↓

| 【次年度に向けた方策(2)】改善方策 | | 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。 |
|--------------------|--|----------------------------------------|
| 小項目 7.0.1 | | |
| ★小項目 7.0.2 | | |
| その他 | | |

◎自由記述

| 【点検・評価】《次年度に向けた方策》 | |
|--------------------|--|
| ★その他 (自由記述) | |

III. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○新しい学部であり、国際交流関係もこれからの取り組みと思われます。学生の参加や教育研究交流など今後の努力が期待されます。

【学内委員】

○適切に点検評価がおこなわれています。幼児、初等教育の教員に期待される国際交流のあり方、また、それを踏まえた国際教育のあり方について検討することが期待されます。

○実習がタイトに組み込まれているカリキュラムにおいて海外交流は難しいと思われます。そういった中で「国際理解」の履修者99名、夏期英語研修3名は評価できます。海外留学が実習に変わるものとして設定するのは難しいのでしょうか。

○小項目7.0.1において示された方針は、方針ではないように思います。学部の性格上、国際交流を活発に行うことが難しいことが理解されますので、一層どのような国際交流を行っていくのかの方針が必要かと思われます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・小項目7.0.1の説明において記述されている方針は行動目標や姿勢ではないのでしょうか。教育学部の国際交流方針をお示してください。

・小項目7.0.1の現状説明は、小項目7.0.2での説明だと思います。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《現状の説明》7.0.1の(方針)部分を下記のように修正。

★(方針) 関西学院大学・聖和大学がキリスト教主義教育の長い伝統の中で育ててきた国際性を重視する。カリキュラムにおいて国際理解や多文化共生教育に関する科目を開設するとともに、全学的な国際交流プログラムも併用し、将来国際的な教育現場で活躍できる地球市民を養成する。